

talk! talk! talk! 女優・入山法子さん



女優 入山法子さん

落ちついた雰囲気と“パツ”とまわりを明るくするような笑顔が印象的な女優・入山法子さん。ドラマや話題のCMでも活躍中の彼女は、この春大学を卒業したばかり。写真部として活動していた大学生の頃は、撮るだけでなく、写真展で展示することの面白さも経験したと話す。入山さんの愛情ある写真への思いをお伝えします。

プロフィール

いりやまのりこ。1985年、埼玉県生まれ。2004年、「週刊朝日」表紙でモデルデビューし、2006年より本格的に女優としての活動を始める。独特な存在感と笑顔、やわらかな雰囲気が性別年代を超え、幅広い層に支持されている。主なドラマに「マイ☆ボス マイ☆ヒーロー」（日本テレビ系）「ハケンの品格」（日本テレビ系）「ジョシテカ！ー女子刑事ー」（TBS系）「貧乏男子ポンビーメン」（日本テレビ系）「土曜時代劇オトコマエ！」（NHK）など。その他、ヤマザキ「ランチバック」のCM出演やバンダイナムコゲームスNINTENDO DSソフト「99のなみだ」のイメージキャラクターとしても活躍している。出演映画「ネコナデ」（大森美香監督）が6月末から渋谷Q-AXシネマ他、全国の劇場で上映予定。

Beginning 出会い

憧れだった 父のカメラ

写真を撮り始めたのはいつ頃からですか？

高校生の頃に父親からフィルムの一眼レフカメラを譲ってもらい、それから本格的に撮り始めました。小さい頃からずっと父のカメラがカッコいいなと思っていて、それを伝えていたら「じゃあ使ってみれば」と言ってくれたんです。ニコンのUでした。

一眼レフカメラの使い方はお父さんから教えてもらったのですか？

いえ、基本的にオートで撮るので、操作が難しいということはありませんでした。すごくたまに「この被写体をこう撮るとどうなるのかな？」と冒険心を出してマニュアルに設定して撮ってみたりするくらいですね。

その頃は何を撮られていたのですか？

学校のない休日に風景を撮りに行っていました。ときどきモノクロで撮ったり、いろいろ試しながら。たまに学校へもカメラを持って行って友達を撮ることもありました。

学校で友達を撮るとなると何だかとても楽しそうな情景が浮かびます。みなさん「撮って！撮って！」という感じだったのではないですか？

「撮るよー！」といった記念写真的な感じではなくて、友達を撮るときはだいたい静かに気づかれぬようにシャッターを押していました（笑）。だから後から「え、いつ撮ったの？」って驚かれることが多かったですね。友達の良い感じを撮りたかったんです。

モノクロでの撮影はいかがでしたか？

モノクロで撮るのはすごく好きです。見慣れた日常風景もかっこよく見えて、撮り始めた頃は結構夢中になりました。大学で写真部に入ったんですが、その頃もずっとモノクロで撮っていました。

写真部に入ろうと思ったのはもっと写真を学びたいと思ったからですか？

はい。それに高校生の頃は撮ったものがどンドン溜まっていくだけという感じだったので、自分の撮った写真を誰かに見てもらいたいという気持ちがありました。写真部に入れば学園祭で展示したり、ギャラリーを借りた写真展をすると聞いたので、それで入部したいなと思いました。

写真部の活動はどういったものだったのですか？

完全に個人活動でしたね。それぞれで撮って、プリントして、展示が近づいてくると集まるという感じでした（笑）。集まるといっても4人くらいだったんですけどね。ごんまりと楽しんでいました。

みんなできりあえず集まって、わいわいしようみたいな感じの雰囲気ではなかったのですか？

そうですね。たまにみんなで遊び半分で一緒にプリントしたり、撮影に行ったりもしましたが、基本的な活動は各々でした。

Pleasure 楽しみ

作品展示はプロデューサー業！？

写真展にはどういった作品を展示されたのですか？

人を撮ったものが多かったですね。その人に合った服を着てもらって、撮影場所を考えて、ポーズを撮ってもらうようなポートレートです。

服を選ぶのも入山さんですか？

そうですね。私が持っているもので似合いそうな服を着てもらったり、雰囲気だけ伝えておまかせでその子に着てきてもらったり。撮りたい写真のイメージが私の頭の中にできていて、あの子にはこの服を着せたい、あの場所で撮りたいって。いろいろ考えているのがすごく面白かったです。

なぜそういった写真が撮りたいと思ったのですか？

その人に合った雰囲気の中で、その人の一番いい表情を撮りたかったんです。

いい表情を撮るためにポイントとしていたことはありますか？

できるだけリラックスしてもらいながら、私もリラックスして撮るということですね。私自身がお仕事で撮られる側の立場になって、初めの頃はすごく緊張したり、何かしなきゃ、応えなきゃというプレッシャーでガチガチになることがあったんです。だから、できるだけ緊張させない雰囲気を作るうと思いました。自分が撮られる側に立ったことで、私自身が人を撮るときの感覚が変わりましたね。すごくゆったりした優しい気持ちでモデルの子と向き合えるようになったんです。愛情が出るような感じ。

撮る側の気持ちは撮られる側に伝染してしまふ。優しさや愛情を持って撮るという姿勢は大切ですね。最近撮られることにも大分慣れてきたのではないですか？

そうですね。最近は見えていただいたみなさんにあの写真よかったですね、あの顔よかったですねって言われると、ああ、じゃあまたそういう写真を撮ってもらいたい、そういう顔を見せたいって思うようになって、今度撮られるときはこうしていこうという意識も強く持てるようになりました。



話は戻りますが、写真展をされた時の思い出を教えてくださいませんか？

写真を引き伸ばしたり、どうやって展示しようかと考えたり、ちょっとしたプロデューサーというか、そういった作業も出てくるのですごく面白かったです。展示するときも数ミリの差が気になって、「もう少し右！もう少し左！」みたいな感じでした（笑）。展示会場に作品を貼り終えちゃうと、それこそ巣立った子供のように感じて、1週間頑張れよ、という送り出す気持ちになりましたね。いろんな人に見てもらってねという感じで。

自分の写真を誰かに見てもらいたいと思っていたことが叶ったわけですが、どんな気分でしたか？

恥ずかしかったです（笑）。正直、人が自分の作品の前で止まったりするとすごく恥ずかしくて、展示中はほとんど会場に行かないようにしていました。後日、感想ノートを見て「うん、うん、頑張ったな」と噛み締めていましたね。大事な人を大事に撮って、大事に展示して、それを見た人が幸せな顔をしてくれるのが嬉しかったです。

大学を卒業されて、最近は何を撮ることが多いのですか？

少し前にデジタルの一眼レフカメラを買ったんです。それで仕事の合間にスタジオの花を撮ったり、ロケ先のきれいな風景を撮ったり。お仕事で海外へ行くときは、合間に一人でカメラを持ってふらふら撮りに行きますね。外国は建物も景色も見慣れなくて面白いし、何を撮っても絵になるのでたくさん撮って帰ってきます。

フィルムからデジタルにした理由は何ですか？

カメラを買いにいったときは、デジタルカメラにしようとか、このカメラにしよう決めていったわけではなかったんです。でも、撮ってすぐ見れたり、カメラ上で編集できたりするデジタルカメラの機能が今の気分合っているなと思って、その場で直感で決めました。

Photo's 作品紹介

静けさと美しさの漂う 雰囲気のある写真





Future これから

海外のいろいろな風景を見たい そして撮りたい

大学時代に撮っていたものと、今撮っているものとは違ってきていますか？

はい、全然違うと思います。大学の頃は“こうしたい！ こういう写真が撮りたい！”という気持ちが強くて、自分の中にあるイメージをいかに表現するかということに一生懸命だったんですが、今はそこにあるものをそのまま写したいという気持ちで撮影しています。あまり気張らずに、心のおもむくままに撮っているという感じなんです。

その心境の変化はどういった理由からですか？

多分、写真を撮るということに馴染んできたんだと思うんです。写真を撮始めた頃は、とにかく頑張って、カッコいい写真を撮るということに夢中でした。カメラを持っていること自体もカッコいい、おしゃれという感覚もありました（笑）。でも、写真を撮っていくうちにだんだん私と写真を撮るという行為が馴染んできて、あまり気負わなくなったんだと思うんです。“力まなくてもいいよ”と、どこかで気づいたというか。だから最近は肩の力を抜いて、リラックスして撮れるようになってきたんです。日常だったり、きれいだなと思った風景。そのときどきに見たもので、残したいと思ったものをそのままの形で切り取りたいと思うようになりました。

楽しみ方も変わってきたんですね。

そうですね。どんなふうに写っても、そのものの味かなと楽しめるようになったんだと思います。被写体の一番輝いているときに撮りたいという思いは同じなんですが、自分で作った姿ではなくて、自然とそこにある姿を撮りたいと感じるようになったんです。

写真の魅力はどういったところだと思いますか？

写真を意識して過ごす、いろいろなものに目がいくようになるし、きれいな風景を見逃さずに見られるところですね。それに、そのとき見たものや感じたものを残しておけるのもすごくいいところ。私にとって写真は日記みたいなもので、すごく大切にしたい存在です。記憶や感情を撮って残して、見返したときには、そのとき感じたものを思い出させてくれる。癒されたり、楽しい気持ちにさせてくれるものですね。

これから撮ってみたいものなどはありますか？

海外のいろいろな風景を見てみたいという気持ちがすごくあって、たとえば、その土地の人だったり、食べものだったり、生活を見てみたいんです。そういった機会があれば、写真もたくさん撮りたいなと思っています。今はなかなか行けないので、よく行きたい国のことを調べて妄想しているんですよ（笑）。

最後に今後写真で挑戦したいことや意気込みがあればお聞かせください。

今はカメラに頼って撮っている部分があるので、使っているカメラにどういう機能があるのかをもっと勉強していきたいです。カメラをいじって、試し撮りをして、失敗しつつもいろいろな可能性を広げていけたらいいなと思っています。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.